Solan Big Thinkers

書き続けるうちに、ものを見る目が変わる!?

「あのねちょう」に子ども達は日記を書いています。2冊目に突入している子がいたり、まもなく3冊目という子がいたりします。12号の通信で書いた考えは今も変わっておらず、

「書きなさい」ではなく、「書きたい」と思える状態にしたいと考えています。

提出された日記には、必ず返事を書くようにしています。

夏休み後には、どっさりと日記帳が集まり、返事に時間がかかってしまいました。

「先生！ぼくの読んだ？」

「先生～、お返事まだ？」

「ねぇ、私の（あのね帳）を先に読んでよ～」

など、催促の嵐でした。

さて、「あのね帳」には原点があります。1980年代に鹿島和夫先生が実践され、「１年１組せんせいあのね」という本になりました。そこから全国的に広まっていきました。**交換日記のようなやり取りをしながら、書き続けるうちに“ものを見る目”が変わる**というのが鹿島先生の主張の一つでした。

これをそのままトレースしているわけではありませんが、“ものを見る目”は養っていきたいなと思います。鹿島先生の子ども達の作品を２つ紹介します。

■ おかあさんは　いつもはやくしなさいとか
もうできたのとかゆうのに
きょうはいいません
ラジオで　こどものしつけのはなしをききました
きょうはなにもちゅういをしません
でもしばらくたつと
いつもとおんなじになるとおもいます

■ わたしとこの　おとうさんとおかあさんは

けんかはしません
なんでかというと
けんかをしたら
わたしにあのねちょうにかかれるから
せえへねんで
おとうさんのかえりがおそかっても
おかあさんはおこれへんで

『せんせいあのね １年１組かしま教室 １ ひみつやで』より

クスッとわらってしまうような、どこか心が温まる、そんな文章がいくつもあります。論理的な文章を書くことができる力も大切ですが、こういうユーモアあふれる視点で文を綴る人になっていってほしいなとも思います。

では本日、長谷川のもとに届いた日記を紹介して、終わりにします。

■ きのうは、すごくあめとかみなりがありました。テレビでくるまにかみなりがあたったといっていたので、もっとかみなりがこわくなりました。やめてほしいです。

■ せんせい、あのね。

きょう、スイミングをやって、テストでごうかくして、ワッペンをもらったよ。
うれしかったよ^_^
つぎのクロールもがんばるね^_^

■ 先生あのね、今日はおんがくのじゅぎょうでキーボードをつかったよ。楽しかったよ。